

パブリックコメント（意見募集）の結果について

いただいた意見の要旨	大田市の考え方
<p>多言語化を進めることによる財政負担の増、今後の状況により表記する言語を増やしていくことに対する懸念から外国で案内板等を多言語化することに反対する（日本語と英語のみでよい）。</p>	<p>◇すべての言語に対応することはできませんが、案内板については外国人誘客（インバウンド）を推進する上でも、外国人住民の市域での買い物を促す（経済の活性化）の上でも、観光施設や主要な施設では必要と考えます。</p> <p>一方で多くの言語で表記すると、逆に見づらくなったりする場合も懸念されます。</p> <p>スマホの翻訳アプリなど、使いやすく便利なツールも増えていることから、それらの活用も踏まえ、バランスを考慮しながら進めてまいります。</p> <p>◇外国人住民も日本人住民と同様に大田市民として、必要な情報は届けなければならないと考えます。特に防災に関することは生命・財産に関わることであるため、優先的に進めてまいります。</p>
<p>外国人の母語や母国文化の取得は家庭で行われるべきである。母国に対する誇りを持つことは日本人にも欠けている部分であり、先ずは日本人への支援を優先すべきである。</p>	<p>◇母語や母国文化の取得は第一に家庭で行われるべきと考えます。一方で、日本で生まれ育った外国人住民は母国文化に接する機会が少ない状況にあります。外国人住民にとっての母国文化の取得や、日本人住民における多文化教育の推進は、グローバルな視点を持った人材を育成する上で必要だと考えます。</p>
<p>外国人コミュニティのキーパーソンや外国人住民のネットワーク組織を支援することは反対ではないが、(大田市から) 団体に助成や補助を行うのであれば、しっかりとした監査を行うこと</p>	<p>◇現時点で大田市から助成金や補助金を交付する形での支援はしておりませんが、必要に応じて適切に支援を行ってまいります。</p>
<p>日本人が外国人を差別しているとは思っていない。差別や偏見があるとするならば具体的な事例を示して周知、対応すべきである。</p>	<p>◇外国人住民向けアンケートの結果では『会社の人のことばや態度』『通りすがりの知らない人のことばや態度』など、40%弱の外国人住民が偏見や差別を感じているとの回答でした。さらに詳しい内容については、今後充実させる相談体制の中で個別に声を聞き、対応してまいります。</p>